

[月刊] 1988年6月18日第三種郵便物認可

トマ喰い虫

〒150 東京都渋谷区渋谷2-5-9 パル青山502

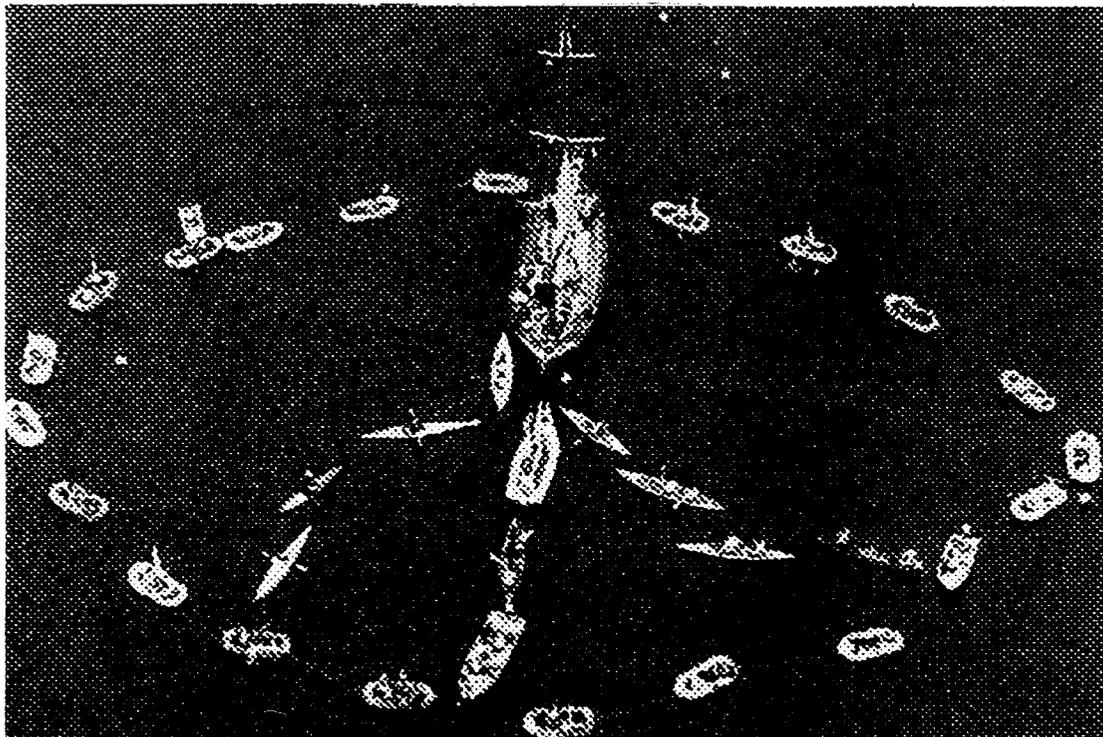
トマ喰い虫社

☎03(498)6095 044(63)5101

FAX.044(63)9907

No.57
90.7.20
定価 100円

月刊反トマホーク通信改題



7月8横須賀港(7.9 [神奈川新聞]より)

軍港にピース・マーク 空母は核を積んでいる…これだけの証拠 自衛隊はどこへ行く？(藤井治夫)

(再生紙使用)

[発行] トマホークの配備を許すな！全国運動

●維持会員(月間会費)

団体 1口 2000円

個人 1口 1000円

●参加会員(月間会費)

団体 1口 1000円

個人 1口 500円

●通信会員

年間 1口

2000円

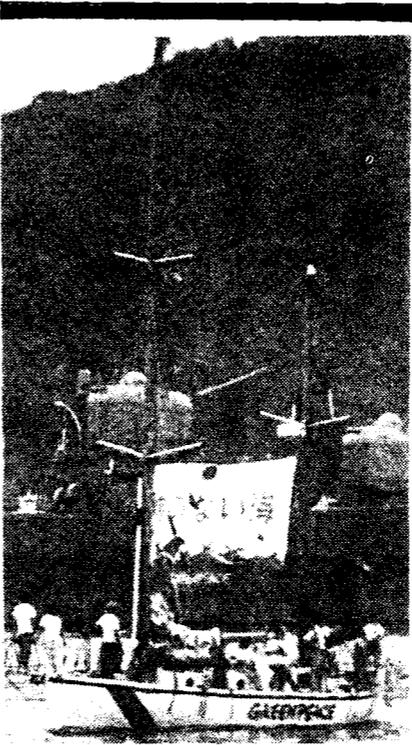
あなたも仲間！(会費は本誌購読料を含みます)

軍港に ピース・マークが 広がった

非核の海を! ジョイント・ セーリング

グリーン・ピース「ベガ号」
と各地の平和船団

●ヨコスカ



VEGA ACROSS the MILKYWAY
VEGA AGAINST MIDWAY
(by 日夫妻・ヨコスカ)

●七月六日、太平洋を越えて織女星(ベガ)はやってきた。グリーンピースの非核の海・日本キャンペーンの始まりだ。七日の予定を一日繰り上げたのは、この日あのミッドウェイが横須賀を出港したため。さっそく、ヨコスカ平和船団と抗議行動(四ページに写真)●八日には、各地平和船団の三五隻のモータ

ーボート、カヤック、ヨット、ゴムボートとジョイント・セーリング。遠く呉や京都からボートを担いでかけた仲間に拍手がわく。空は曇り模様だが、雨、風もなく「平和船団日和」。初めての人も最初はおそろおそろ、しだいにのびのび、愉快に、オールを動かす。

●ハイライトはなんといっても船で描いた直径三十メートルのピース・マーク。十六メートルのマストの上でコンダクターをつとめたグリーンピースのOさんの奮闘もあって、ついにできた! 海と陸から歓声があがる。●この海を、軍隊から生きるものの手に取り戻すために私たちにも何かができそうな、そんな予感で一杯のジョイント・セーリング。楽しかった。また、集まろう。もっともっと沢山の船で、家族や友達をさそって。●ベガは十四日、大阪、広島をめざして出港していった。航海の安全と成功を祈っています。(田巻一彦)

インディペンデンスの母港 を止めよう!



横須賀 NEPA訴訟

この秋 いよいよ 提訴へ



「核艦船の母港化に裁判でも申す」。ほかでもないアメリカの法律「国家環境政策法(略称NEPA)」をたてに。横須賀市民を中心に一年間練りに練られてきたこの計画がいよいよ実行に移されることになった。

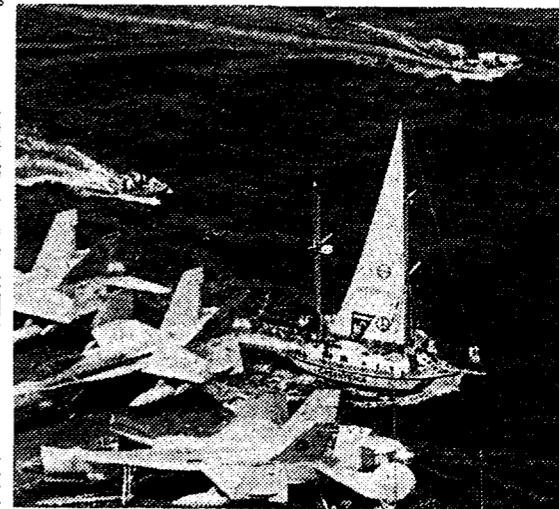
「NEPAの会」(清水昭司代表)は、さる七月十四日横須賀で「発足一周年の集い」を開催、この秋にも空母インディペンデンスの母港化差し止めを求める裁判を、ワシントンの裁判所に提起することを明らかにした。「集い」には、富野暹子市長もかけつけ、激(五ページへ)

(二ページから)
 励と連帯の挨拶を寄せた。
 NEPAはアメリカ連邦政府が行う行為に対して、環境面から規制を加える法律で、事前に詳細な環境影響評価書(EIS)を作成することを義務づけている。このEISが作成されていない場合、あるいはその内容に不備がある場合には、その行為自体を差し止めることができる。海外での「行為」も対象から除かれていない。

● ●
 インディペンデンスが搭載する艦載機は八六機でミッドウェー(六六機)より二十機も多い。機種も新しくF14が加わっている。これによるNLP(夜間離発着訓練)の騒音増加をはじめ、米軍住宅問題、核事故など同空母が環境に与える影響。これらに関するEISが作られているのか、どんな内容なのか、が争点となる。アメリカ国内では航空機騒音の問題でEISが作られ、裁判になっている例もある。

「NEPAの会」では、この訴訟の成功をめざして、できるだけ多くの個人、団体によって「原告団」を作ることと、一〇〇〇万円の訴訟費用カンパを呼びかけている(折り込みの「よびかけ文」を参照してください)。
 熱い支援を！やろうぜ、みんな！(編集部)

どう考えても 空母は核を 積んでいる



7月6日横須賀を出港するミッドウェーにベガ号とヨコスカ平和船団のモーターボートが抗議の伴走。

◆ミッドウェー爆発事故から一月がたった。事故の真相も原因も何も明らかにされないままに、ミッドウェーは「通常の任務行動」を続けている。人命・人権・安全性無視の戦争の機械の本質を見る思いだ。

◆ところで、事故のあと、ミッドウェーは核を積んでいないという節が一部で流れ始めた。そう唱えるのは、例えば軍事評論家の小川和久氏。小川氏は「最近、日米共同訓練でミッドウェー空母戦闘団は核攻撃のパターンをとらない」との海上自衛隊筋の観測を根拠としているという(七月十九日「朝日」)。

◆はたして、そうだろうか。NEPAの会

(横須賀)の訪米団、PCDS(太平洋軍備撤廃運動)と反トマ全国運動、グリーンピースなどの集中的な調査の結果明らかになったのは、ミッドウェーとその後継艦インディペンデンスの核疑惑がますます濃く、動かしがたいということである。

核専門部署

米海軍省図書館におさめられた「クルーズ・ブック」によれば、ミッドウェーとインディペンデンスの武器部の中に、Wディビジョン(武器課)が置かれている。武器課はNBC(核・生物・化学)兵器のみを扱う部署

特殊弾薬貯蔵庫

一九八六年が横須賀で九ヶ月の大改造工事を行った。グリーンピースが入手したその工事の報告書によれば、SASS(特殊弾薬庫)と呼ばれ

核承認テスト合格

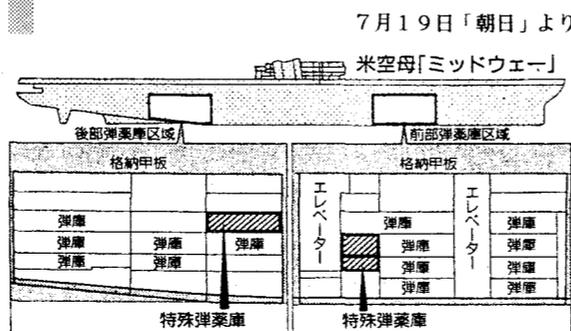
「クルーズ・ブック」の八五―八七年版には、「この間武器課が二度にわたって、核能力を承認する」「海軍技術検度検査」を受け、合格しているとの記述がある。この検査は、別の米国防省公文書によれば、十二ヶ月に一回、核承認済み軍艦が核能力を維持するために受けなければならない検査である。

グリーン・ピースが情報公開法で入手した「ミッドウェー要員配置表」によれば、兵器部の士官十一人のうち三人が兵器課に配置されている。

る核兵器庫の効率を高め保安を改善するための工事が含まれていた。
 このSASSについては、「朝日新聞」が数や位置を示す図面を入手している(図参照)。

核は積んだまま

PCDSと反トマ全国運動が入手した八四―八五年のミッドウェーの米本土外の全寄港先を示す公文書によれば、この期間日本への寄港前に核を積み降ろしできる港へは寄港していない。また、同時に入手した核の積み降ろしマニュアル、「核兵器(九ページへ)」



インディペンデンスの 母港に反対する 市民の月例デモ



7月は29日です。

8月は26日
 ねんのため



とりあえずの呼びかけ

- NEPAの会
- 非核市民宣言運動・ヨコスカ
- ヨコスカ市民グループ

■よびかけ団体・個人になってください。市内・県内様々な人々の共同のデモにしたいと思ひます。

連絡先●横須賀市本町3-14山本ビル2F
 ●0468-25-0157

●「臨海公園」は京浜急行「汐入下車海の方に歩いて五分ほど。」

反核ホット ライン

27

だより

入港情報

90・6・15(7・18)

P級II (原子力潜水艦パーミット級)
S級II (原子力潜水艦スタージョン級)
L級II (原子力潜水艦ロサンゼルス級)

(7・10) ソルトレイクシティ(L級)
午前10時 横須賀に入港
(7・18) ソルトレイクシティ(L級)
午前10時 横須賀を出港

*1990年7月18日現在各港への原子力艦
の入港回数は、

横須賀 11回(うち原潜11回)
佐世保 1回(うち原潜0回)
ホワイトビーチ 9回(うち原潜9回)
計 21回(うち原潜20回)

回数	寄港日	寄港地	艦名	日数
1回	89・12/27~90・1/6	横須賀	パファー(S級)	11日
2回	1/17~20	ホワイトビーチ	ハドック(P級)	4日
3回	1/19~22	横須賀	フラッシャー(P級)	4日
4回	1/22	ホワイトビーチ	ハドック(P級)	1日
5回	2/14~20	横須賀	オマハ(L級)	7日
6回	2/19	ホワイトビーチ	パファー(S級)	1日
7回	2/25	ホワイトビーチ	オマハ(L級)	1日
8回	2/28	ホワイトビーチ	ソルトレイクシティ(L級)	1日
9回	2/28	ホワイトビーチ	オマハ(L級)	1日
10回	3/20~4/1	横須賀	パファー(S級)	13日
11回	4/3	横須賀	フラッシャー(P級)	1日
12回	4/11~23	横須賀	トードック(S級)	13日
13回	4/16~26	横須賀	ハドック(P級)	11日
14回	5/2~14	横須賀	ガードフィッシュ(P級)	13日
15回	5/17~18	ホワイトビーチ	ガードフィッシュ(P級)	2日
16回	5/23~25	ホワイトビーチ	ガードフィッシュ(P級)	3日
17回	5/27	横須賀	ソルトレイクシティ(L級)	1日
18回	5/27	ホワイトビーチ	ガードフィッシュ(P級)	1日
19回	5/28~31	横須賀	オマハ(L級)	4日
20回	5/28~6/2	横須賀	パッファロー(L級)	6日

*1回目のパファーの入港日数は、前年の日数も含まれております。また、この表の入港回数は、90年度の回数であって、『反核ホットライン』の累積入港回数とは違います。 *☆印はトマホーク搭載型原潜。

90年上半期原潜寄港一覽表
(90・1~6)

米ソ新時代 自衛隊はどこへ行く?

藤井治夫

●軍事評論家

(前号より続く)

共に戦う「安保」へ 基盤を整備

一九七八年の「日米防衛協力指針」(ガイドライン)以降、日米は共に戦うことになつて、合同演習をどんどんする。リムパックスなど演習の内容も高度化します。こうして有事即応、臨戦体制が強化されてきました。

戦争をやれば、当然自衛隊員が死ぬわけですが、その補充がつかない。現在、予備自衛官は少数いるだけで、いったいどうするのか。しかも現役の自衛官は、募集困難。防衛大学を卒業しても、任官を拒否してやめて行くという問題もあります。また、適齢者人口がど

●「太平洋に雲はいるか」の軍事評論を、
『反核ホットライン』(四月三日)での講
演(タイトル、中見出しは編集部)。

んどん減っていくという見通しもある。十八才の男子人口は、現在がピークで一〇五万人、これが二一世紀初頭には六九万人になります。しかも民間企業と争わなければならぬ。こういう中で、どうして自衛隊員を確保するか。いろいろの研究が自衛隊で行なわれています。一番望ましいのは徴兵制ですが、なかなかそうはいきません。

そこで、現在は自衛隊に入った人だけが予備自衛官になれるわけですが、入ったことのない人も、予備自衛官になれるようにしよう、そしてできるだけたくさんの手当てを出して、その人達を予備兵力として確保していこうという案を、防衛庁が具体的に提起しています。学生を予備自衛官にして、アルバイトよりも給料を出せば、夏休みに、訓練を受けてくれるようになってくれるにちがいない。なぜ

なら、政府の世論調査に、いざという時には自衛隊と共に戦うと答えた人が若い人で四・六%いる。いまの学生の数が一三二万人で、その四・六%であればどれぐらい確保できるだろうかという計算までしているのです。つまり、自衛隊を支える国民的な、あるいは国家的な基盤を作ることが、いま考えられている。

有事立法の問題もそうです。いざという時に、医療機関や土木・建築関係、運輸関係の労働者を確保しなければならぬ。そのため法律の整備が進んでいるのです。

日米安保条約も、たんに自衛隊と米軍が共同作戦をするというだけでは足りない。安保を支える国家的基盤が必要であるということを出てきたのが、有事来援研究とか、戦時受け入れ支援、いわゆるWHNS体制をいかに作るか。あるいは米軍のために有事立法を整備することが、いま日程に上っています。日米が国を挙げて一緒に戦えるようにしようとしているわけです。

一方で、安保は、いまや対ソだけでなく、アジア・第三世界に矛先を向けるに至っている。朝鮮半島の問題は、その一つです。

四月十八日に発表された、「アジア太平洋におけるアメリカの戦略構想」では、北東アジアが非常に重視されている。これに対して

原子力艦入港情報 テレホンサービス

ブッシュホンで、まず井8301、そして連絡番号 968・1071、次に暗誦番号 1071
クロハ イレナイ

在の自衛隊員というのは、決して他の民主主義国における軍隊と同じものではないと考えています。わが国の軍隊は、侍の時代、天皇の軍隊、いまの自衛隊にいたるまで、国民に奉仕し、国民を守ろうとしたことではないのです。それは、「なだしお事件」で、はっきり証明されています。この事件が起きた時、私のところにはイギリス、オーストラリア、アメリカ、中国、ソ連からも電話があり、何であんなことがおきるのだと問われました。そこで私は、あなた方の日本の自衛隊に対する見方は全く間違っていると答えました。だいたいどの国において、「なだしお事件」のようなことは有り得ないはずで、ところが自衛隊は自分がおつかつて沈めておいて、民間人を見殺しにして、一生懸命航海日誌を改ざんしていたのですから、とんでもない話です。タイコンデロガの航海日誌を見ると、やはり訂正していますが、欄外に「訂正」と書いてサインをしています。日本だったら、「訂正」と書いて判子を押すのが訂正です。公の文書を勝手に破いて棄てて書き直して、しかも一方では日報がなくなっている。こういうのが、日本の軍隊の伝統的な体質なのです。それは、かつて侍が農民や町民を守ろうとしなかったのと同じことです。日本軍が、沖縄で国民を踏み台にし、満州でたくさんさんの残

読者から



●たしか大森実さんが言ったように思うが、一消防署の書類はオープンなんだ」と言っているの届け書類から核の存在がバレたことがあったと思う。今回のミッドウェーの火災か爆発も「報告」か補給部品から原因が明確になるのでは、と思う。(H・Y 会社員・東京)

●トマ喰い虫のイラストが大好きでコピーしているところにはつつけています。かまわないうでしよう? (乾 孝 心理学の教師・鎌倉市) :かまいません、かまいません、どんどんはつつけてください(編集部)

●「トマ喰い虫」という言葉は何か生理的にいやな感じがします。「トマホークの配備を許すな!」の方がまだよい。(女性・東京) :うーん、そうか(編集部)

●先日、指紋捺捺撤廃などの集会で福島原発事故の話がありました。パンフなどを読むと、万一日本でチェルノブイリ級の事故が発生し

留孤児を生み出してきたのと同じです。けっして国民を守る軍隊ではなく、国家に忠誠をつくす軍隊なのです。ですから防衛白書に、「守るべきものは、国民に最大限の自由を与える国家体制である」と八一年に書いたのです。自由は、国家が国民に与えるのです。主権は国民にあるのではなく、国家にあるのです。そこに天皇が出てくるし、靖国が出てくる。

自衛隊の富士学校の遊就館という施設にA級戦犯の遺影が飾られているのを見て、私がびっくりしたのは七十年代の初めのことでした。それが七十八年に靖国に奉られた。そして、富士の遊就館も八十年代になると靖国に移ります。自衛隊は、あの侵略戦争を全く反省していない。当時と同じ体質で今でもやっているのです。

このように日本の軍隊には二重の問題があるのです。一般的に軍隊そのものにある問題性に加えて、自衛隊では日本の軍隊の伝統である危険な侵略性と反国民的な体質が、どんどん強化されているのです。

● ● ●
そうであるがゆえに、私たちは平和の世紀に道を開くために、日本の政策を軍拡から軍縮へ転換させなければならぬと思います。そこにはもちろん米軍基地の縮小が含まれます

た時、日本の全域に容易ならぬ被害をもたらすものと考えます。そうなれば、他国に逃げ込むのは必至で、現在の日本が外国人に対し鎖国的排他主義をとる限り、いざこの時、逆排他となつてしつべ返しとなり、苦しみを受けるのでは? (金文善 無職、生活保護受給者・東京都)

読者カードにあなたの声を!

前号から読者カードのハガキを同封しています。紙面への感想、批評、貴方の身のまわりの耳より情報、運動への提案、アピール、誰かに告げたい胸のうち…

なんでも結構です。編集部にお送りください。紙面で紹介させていただきます。ハガキでは足りないゾ、という方でももちろんOK。二〇〇〇字位までを目途にご投稿ください。



す。一番危険なところ、一番被害の大きいところ、デタントに対して有害なところを、どんどん無くなければならないのですが、こういう一番悪い基地が、実はずっと維持されていこうとしているのです。横須賀、横田、三沢はずっと維持していくと、アメリカは言っています。これでは全く軍縮にはならないという趣旨で今日皆さん方は集まれたのだと思います。

海の軍縮は、本当に大事です。アジア・太平洋における最大のポイントです。これからは運動を盛り上げていってくださるよう提言して、私の話を終わります。◆おわり

●訂正とおわび

前号において、藤井治夫さんのお名をわびして訂正いたします(編集部)。



●編集から、版下作り、印刷まで「トマ喰い虫」はすべて手作りです。ミニコミ作りに興味がある人、平和運動の新しい話題にふれてみたい人、イラストやデザインをいっしょうやってみようか、と思ってる人。ワープロ打ちならまかせなさい、あるいは覚えてみようかな、なんて考えているひと。新しい友との出会いを願っているあなた! いっしょにやってみませんか。

●月に一度の発送も大事な仕事です。一度のぞきにきてください。ちょっとの時間でも手を貸してもらえたらうれしいです。毎月20日直後の日曜日、日吉のトマ喰い虫社分室です。(東横線日吉駅下車歩いて7分/☎044(63)5101)

次回は

8月26日 午後2時からです。

を虫によう 喰いしまし トマ喰い虫 いっしょう 作り

スタッフ、
助っ人大募集!



会計報告

(90.6.21~7.19)

[収入]	
○前月からの繰越	△200,509
經常繰越	49,491
借入金繰越	△250,000
○今月の収入	283,800
会費収入	196,000
内訳	
維持団体	72,000
維持個人	33,000
参加団体	20,000
参加個人	22,000
通信会員	49,000
カンパ収入	82,500
行動収入	0
資料収入	5,300
反核ホットライン収入	0
アンケート調査収入	0
[支出]	
●今月の支出	197,410
家賃	30,000
水道光熱費	10,510
電話代	17,015
郵送費	38,000
文具代	0
印刷費	99,215
行動費(独立採算の行動を除く)	0
資料経費	0
反核ホットライン経費	0
アンケート調査経費	0
郵便振替等手数料	2,670
●次月への繰越	△114,119
經常繰越	135,881
借入金繰越	△250,000

追悼

田尻宗昭さん

田尻宗昭さんが七月四日夕刻肝臓ガンのため帰らぬ人となった。六十二才。余りにも早く、惜しんでも余りある死だった。

田尻さんは誰よりも海を愛した。そして誰よりも憎み、戦いを挑んだのは、力あるものの不正と横暴だった。海上保安庁の巡視船隊長として、東京都公害研次長として、そして神奈川労働センター所長として、その生き方を貫いた人だった。

八八年六月、横浜で開かれた「トマホーク艦母港計画具民審査会」で、田尻さんは東京

湾の抱える病と、軍港の危険性を熱っぽく証言した。ひと月後、その予言どおり「なだしお事件」が起こった。

田尻さんがその時私たちに与えてくれた示唆は、今、NEPA訴訟や平和船団の理論的支えとして私たちの中に生きていく。これから、という時に支柱を失った痛手は大きい。私たちも田尻さんが成し遂げ、あるいは途半ばに逝った、志の何分の一かでも分かち合っていきたいと思う。田尻さん、安らかに眠ってください。(田巻一彦)



●会計より

多くの方々からカンパをいただきました。またたまっていた会費の送金もあって、ギリギリだった財政もなんとか一息「つきつつあります」。ありがとうございます。しかし、ごらんのように自転車操業の現状はいぜんとしてつづいています。引き続きのご支援をお願いいたします。また、お心あたりの方、お忘れの会費のほうをよろしく！(領収書は郵便振替受領証にて代えさせていただきますが、とくにご入用のばあいには、通信欄にご明記ください)。

月刊トマ喰い虫第五十七号

一九九〇年七月二十日発行(通巻五十八号)

*発行 トマホークの配備を許すな!全国運動

〒一五〇 東京都渋谷区渋谷二一五一九

バル青山五〇二 トマ喰い虫社

☎三(四九八)六〇九五

〇四四(六三)五二〇一

FAX〇四四(六三)九九〇七

郵便振替 東京六一三六一四八

*編集 トマ喰い虫編集委員会

*定価 一〇〇円(通信会員年間二〇〇円)

